

市立博物館で写真展

大船渡

自習スペース、活用して

中高生対象に無料開放

登米・迫「SUKOYAKA」

登米市迫町の「とめ中高生自習スペースSUKOYAKA(すこやか)」は、震災の津波で被災し、今は市内の仮設やみなし仮設の住宅で生活する沿岸部出身の中高生と、もともと市内で暮らす生徒が、学校や自宅以外の「居場所」として利用している。運営スタッフは「進級、進学を機に、多くの子に利用してほしい」と呼び掛ける。



「とめ中高生自習スペースSUKOYAKA」で、学習前に高校生たちと談笑する高橋さん(右端)と森田さん(右から2人目)

SUKOYAKAは、NPO法人こども福祉研究所(東京)が、企業や団体の支援を受けて2012年12月に開設。研究所は東洋大社会学部教授の森田明美さんをはじめ、大学の研究者や施設職員といった子どもの福祉のために活動する人たちで発足。主に関東で、地域の子どもの育成や一人親家庭の自立支援などを行っている。

震災後はいち早く津波の被災地に入り、2011年9月、岩手県山田町に中高生の無料自習スペース「山田町ソクタハウス」を開設した。SUKOYAKAはソクタハウスの開設・運営ノウハウを生かしている。地域の大人とのつながりを持たせようと、開設場所は仮設住宅の住民と登米市民との交流を目的に設置された「とめ女性支援センター」を選んだ。

「心の安全空間」に

用する中高生の進級を祝う会も開く予定だ。運営スタッフも近隣住民が受け持つ。放課後、次々と訪れる中高生に「お帰し」「風邪ひいていない」などと声を掛け、して勉強に取り組みめる。

温かく迎える。スタッフの高橋徳子さんは長年、地元の小学校図書室に勤めた。「小学生と違い、中高生とうまく接していけるか不安もあったが、みんな素直でかわい。試験や受験が近づくと、自分のことのようにそわそわしてしまう」と話す。近々、利用する中高生は「家より集中して勉強できる」「みんなが勉強している」とやる気が起きる。併設のカフェでは軽食も食べられる。

企業から寄贈された辞書や参考書、問題集も完備。木曜には元塾講師による学習指導も受けられる。併設のカフェでは軽食も食べられる。利用する中高生は「家より集中して勉強できる」「みんなが勉強している」とやる気が起きる。併設のカフェでは軽食も食べられる。

連絡先はSUKOYAKA 0942-000000(25000000)。



企業から寄贈された辞書や参考書、問題集も完備。木曜には元塾講師による学習指導も受けられる。併設のカフェでは軽食も食べられる。利用する中高生は「家より集中して勉強できる」「みんなが勉強している」とやる気が起きる。併設のカフェでは軽食も食べられる。